

分野：⑩、

(地球は危機的状態)

環境アドバイザー

上領 園子

対象 ゆずの里ケーブルテレビ契約家族
役場ロビーで見た人

所要時間  15分

場所 ゆずの里ケーブルテレビ内

実施時期 令和3年4月1日～
4月30日

概要

温暖化は危機的状態にあり世界中で気候災害が頻発している、原因は化石資源をエネルギーとして使い発展し便利に暮らして来たために二酸化炭素などの温室効果ガスが増加し温暖化を招いた。将来世代には大きな影響を与えることになることを知り急いで対策をとる必要がある

プログラムの
ねらい

未だに温暖化は自然現象であり氷河期へ向かっており、この暑さは氷河期へ向かう間の揺らぎであるという主張をされる方が市の要職についていたりしている現状から一般の方は惑わされる事が無いよう温暖化はすでに危機的状態である人間の仕業である事を知り危機意識の共有を深めること

プログラムの内容

- 1 甚大な気候災害が世界中で多発している
気候災害 異常気象 地球温暖化 CO₂濃度の増加
- 2 エネルギーの消費によるCO₂増加が問題
化石資源 精製・転換・発電 便利な豊かな暮らし
- 3、4 温暖化の仕組み
動画を使いCO₂などの温室効果ガス増加により温暖化した
- 5 世界のCO₂濃度は過去最高を更新
二酸化炭素の排出経年変化のグラフ
- 6 地球温暖化は危機的状態
世界の平均気温経年偏差グラフ・日本の1990年以降のCO₂排出量と2030年、2050年に向けてのグラフ・2010年に生まれた子が20歳になった時の予測される地球の様子
- 7 温暖化は温暖化を連れてくる
氷河が融けむき出しになってゆく山の連続写真
- 8 我が町にも豪雨による気象災害
越辺川の越水による

受講者の反応

知らないことがあって知れてよかった。
毛呂山でも被害があったことを知った。

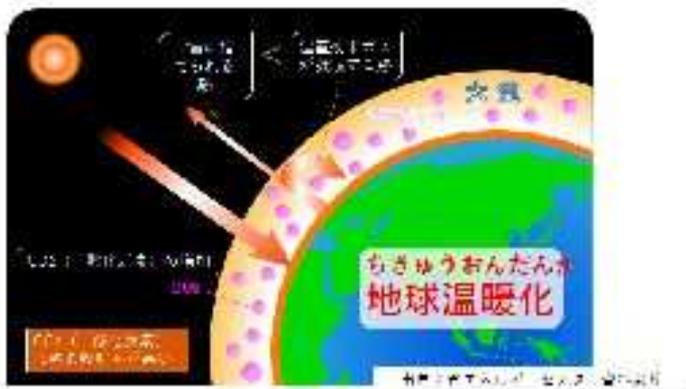


おしえて！
上領先生

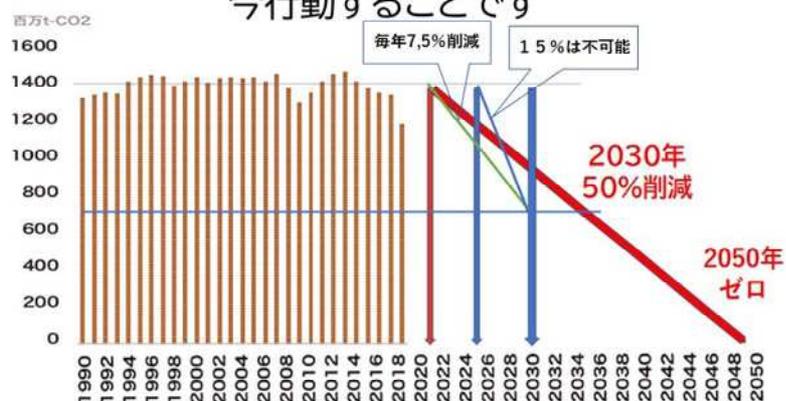
今回のテーマ

地球温暖は危機的状態

温室効果ガスと地球温暖化



今世紀末までに1.5℃に抑えるために
今行動することです



分野：⑨、⑩

(気候は危機的状態)

環境アドバイザー 上領 園子

対象 ゆずの里ケーブルテレビ契約者と
役場ロビーで見た人 所要時間  15分

場所 ゆずの里ケーブルテレビ内 実施時期 令和3年5月1日
～5月31日

概要 CO2 排出の 9 割はエネルギー起源、エネルギーの消費による温暖化が問題、家庭からの CO2 排出量、省エネが必要、埼玉県の県民への取り組み、エコライフ DAY、暮らしの省エネ A の家 B の御家の比較、主要国の一次エネルギー自給率比較、電気は再生エネルギーから

プログラムのねらい 温暖化は危機的状態であること
人類に残された(対策を取りその効果が活かされる) 時間は多くないこと知ってもらい対策が急がれることを意識してもらうこと、そして対策として何から始めればよいかの確認

- 1 二酸化炭素排出の 9 割はエネルギー起源
- 2 家庭からの二酸化炭素の排出
- 3 エネルギーと環境の対策は、省エネが必要
- 4 埼玉県の県民への取り組み
- 5 エコライフ DAY
- 6 家庭からの CO2 削減は節電すること
- 7 省エネを探そう A の家と B の家を比較
- 8 主要国の一次エネルギー自給率比較
日本はエネルギーを海外から輸入している
毎年 20 兆円以上の金額が海外へ出て行っている
- 9 電気は再生可能エネルギーから
- 10 自然エネルギー発電会社に変える

受講者の反応
いろいろ改めて考えさせられる。

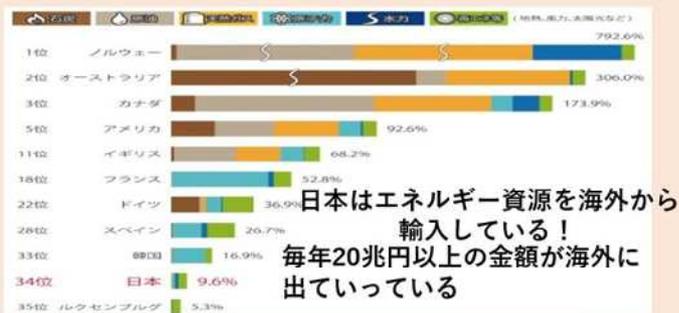
環境学習の様子（写真） ※表面に写真を掲載している場合は不要



家庭からのCO2排出量



主要国の一次エネルギー自給率比較(2017年)



出典：経済産業省

分野：⑧、⑩、

「 私たちの責任 」

環境アドバイザー

上領 園子

対象

ゆずの里ケーブルテレビ契約者と
役場ロビーで見た人

所要時間



15分

場所

ゆずの里ケーブルテレビ内

実施時期

令和3年6月1日
～6月30日

概要

予測されている将来の気温や財務省発信のグラフから国の財政赤字、原発からの廃棄物処理の負担を未来世代に対して多大な負荷を残すことの認識。京都議定書、パリ協定での日本の取り組みと他先進国の取り組みの差
気候対策は生活の質を高める

プログラムの
ねらい

多くの負荷を将来世代へ残す結果となっている。
その軽減のために今生きている者の責任として認識し、これからの生活を考えるきっかけになること

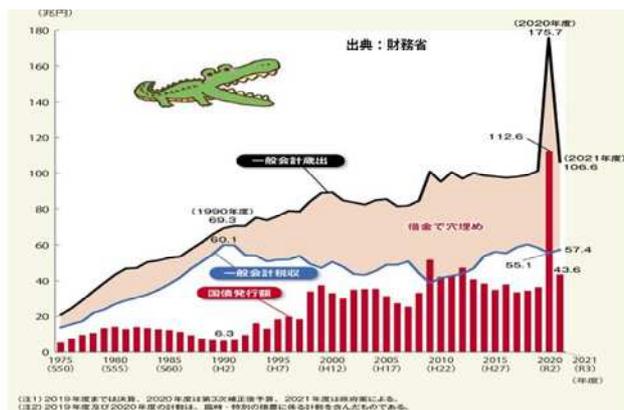
プログラムの内容

- 1 アメリカ地球物理学連合の論文から
- 2 財務省発表 国の借金のグラフ
- 3 原発とその廃棄物の始末
- 4 原子力発電所の現状の図
- 5 気候変動について世界中の国々で話し合ってきた
- 6 京都議定書
- 7 日本の取り組み
- 8 パリ協定
- 9 日本の取り組みと諸外国との比較
- 10 菅義偉首相 新目標発表
- 11 英国・EUの目標と1.5℃目標に整合しない日本の目標
- 12 気候変動対策は生活の質を高める

受講者の反応

日本の取り組みが遅れていると聞いていたけれど、こんなだったとは驚いた。

環境学習の様子（写真）



- つまり、収入より支出が多くて借金をしてまかなっているということです。
- それで鰐のくちが大きく開きっぱなしになっていると説明がされています。
- 原発とその廃棄物の始末です。日本にはこんなにも沢山の原子力発電所があります。
- そこから出た多くの廃棄物、つまりごみは高い放射線を発します、安全になるまでには何十万年もかかるものもあります。
- 原発を動かせばそんなごみが増えていきます。まだそのごみの処理方法は決まっています。
- 将来世代にはなんの恩恵も受けずにこのごみの始末をしなければなりません。

分野：② ⑦ ⑫

「 プラスチックの問題 」

環境アドバイザー

上領 園子

対象

ゆずの里ケーブルテレビ契約家族
役場内フロアーで見た人

所要時間



15分

場所

ゆずの里ケーブルテレビ

実施時期

令和3年8月1日～
8月31日

概要

先月に引き続きペットボトルの問題から、資源回収に出せるもの出せないもの回収されないペットボトルの行方、プラスチック全体の問題
不始末なプラスチックが海洋汚染をまねている。生態系への影響
今、私たちにできる事

プログラムの
ねらい

プラスチックを安易に使い過ぎていること
そのことが地球温暖化を招き海洋汚染や健康被害、生物の多様性を脅かす原因となっており、経済的にも損失であることを理解してもらうこと

プログラムの内容

- ・ 8月1日から31日まで毎日午後3時から（15分）
- ・ 8月1日から31日まで毎日午後9時15分から（15分）
- 1 資源として出せるペットボトル
- 2 ペットボトルを違う角度から見よう
- 3 温暖化対策として健康のため町の財政負担軽減のためペットボトル利用を止める時ではないか
- 4 ポイ捨てされたペットボトル
- 5 プラスチック全体の問題
- 6 その他容器包装プラスチックにどんなものを出していますか。
- 7 不始末なプラスチック・側溝に捨てられたたばこの吸い殻、それらは川を下って海へ
- 8 海洋汚染と生物多様性の危機
- 9 プラスチック規制世界の動き日本の現状
- 10 日本はプラスチックごみ排出量世界第2位
- 11 今私たちにできる事

受講者の反応

何度も繰り返し放映されているのがいい。

内容については地球規模の話と我が町の現状の両方を語っている点、最後にいま私たちにできる事を取り上げている点がとてもいいと思いました。

環境学習の様子（写真） ※表面に写真を掲載している場合は不要

先月に引き続きペットボトルの問題から

- ペットボトルを資源回収に出せるのはこのマークがついているものだけです。
- キャップとラベルを外して
- 中をすすいで
- 水をよく切って潰して出します。
- 飲み残しなどがあれば資源になりません。
- キャップとラベルは、その他容器包装プラスチック（その他プラ）として出します。
- 塩ビボトルやマークのないボトル、それにポリエチレンやポリプロピレンのボトルは一緒に入れられません。



防災公園草刈り後に現れた ペットボトル



3、中身が商品であること

ダイレクトメールの封筒、
クリーニングの袋とハンガー、
フリーザーバック、
CDのケース



中身が商品でない

中身と一体である



マークの付いたチューブ類やボトル類は中身を
出し切ってすすいで出す、無理な場合は可燃ごみに。

- これらプラスチックも原材料は石油です。2050年二酸化炭素の排出ゼロに向かって止めていかなくてはなりません。

以上のことからいま私たちに今できる事は

- 使い捨てプラスチックは買わない、貰わない
- 繰り返し使える瓶の製品を買う
- マイボトル、マイバックを持参する
- 使い捨てストローやナイフ、フォークを使わない
- ばら売りや簡易包装のものを買う
- プラスチック飲料を避ける。
- イベントでリユース食器や再生可能な素材の食器を使用する。

分野：⑫ ⑬

「 フードマイレージと食料問題 」

環境アドバイザー

上領 園子

対象 ゆずの里ケーブルテレビ契約家族
役場ロビーで見た人

所要時間



15分

場所 ゆずの里ケーブルテレビ内

実施時期

令和3年9月1日～
9月30日

概要

フードマイレージから分かったこと
年々減少する食料自給率
突然起こる食料供給の混乱 そのときの対策
自給率を上げるために今できる事

プログラムの
ねらい

身近にある食材が加工されて簡単に食卓へ出せる事のために遠くからエネルギーを使い二酸化炭素を出して運ばれてくることへの疑問。
商社などの売る側の戦略に巻き込まれずに消費者として毅然としてほしい。
食料自給率の低下の意味すること、自給率を上げるために何ができるか。

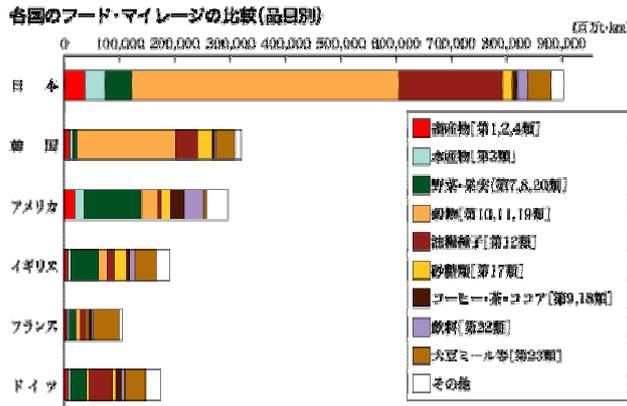
プログラムの内容

- ・ 9月1日から31日まで毎日午後3時から（15分）
- ・ 9月1日から31日まで毎日午後9時15分から（15分）
- 1 フードマイレージとは
- 2 各国のフードマイレージ比較
- 3 イタリアから直送冷凍グリル野菜
- 4 前表示の野菜と国内産野菜のフードマイレージとCO²排出量比較
- 5 南半球から送られてくる数々の果物
- 6 我が国と諸外国の食料自給率の比較グラフ
- 7 何処から何が多く輸入されているか
- 8 自給率低下の理由
- 9 突然起こる食料供給の混乱
- 10 その対処とその時の献立例
- 11 今自給率アップに何ができるか

受講者の反応

すごいデータで良く分かった。

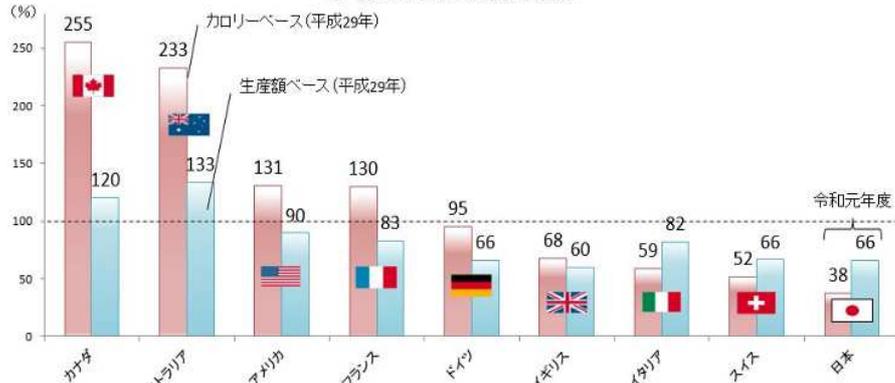
環境学習の様子（写真） ※表面に写真を掲載している場合は不要



く出版「中野啓也:食料の輸出入量・距離(フード・マイルージ)とその環境に及ぼす負荷に関する考察 農林水産政策研究レビュー11



○ 我が国と諸外国の食料自給率



資料：農林水産省「食料需給表」、FAO “Food Balance Sheets”等を基に農林水産省で試算。(アルコール類等は含まない)
 注1：数値は暦年(日本のみ年度)。スイス(カロリーベース)及びイギリス(生産額ベース)については、各政府の公表値を掲載。
 注2：畜産物及び加工品については、輸入飼料及び輸入原料を考慮して計算。